
捨てられなかったルージュ

リック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

捨てられなかったルージュ

【Nコード】

N00010

【作者名】

リック

【あらすじ】

今日わたしは結婚する。

でも彼のくれたルージュは今でも捨てられないまま――

ふんわりとしたやわらかな唇の上に、ピンク色のルージュを引いていく。

今日は喜ぶべきはずの日だというのに、鏡の向こうの私は、笑ってはいなかった。

「美和、用意は出来た？」

母の静かな声に、私はルージュを引く手に力を込めた。唇の輪郭から薄いピンク色がはみ出る。じわりと目の端に溜まった涙が、頬の上を流れた。必死に指で涙をぬぐう私の後ろで、母がおどおどと声を掛ける。

「美和、美和どうしたのよ。まだ今は泣くところじゃないわよ……」
どんなに止めようとしても、次から次へと涙が化粧台の上へと落ちていく。まるで、私のずっと心に秘めてきた感情のように。

——おまえにはこの色が良く似合うからな。これでその不細工な顔もちよつとはマシに見えるだろ。

あの日の祐くんの声が聞こえる。私にピンクのルージュをくれた彼の声が。

大好きだった。不器用で素直じゃない性格も、ちよつと口は悪いけど本当は凄く優しいところも。でも、彼が選んだのは私との未来じゃなかった。私が選んだのも彼とは違う人と歩む未来。

私は真っ直ぐ鏡を見つめた。そこには純白のウエディングドレスに身を包んだ自分自身の姿があった。その眩しいほどの白さが、結婚するということを実感させる。

今日、浩二郎さんと誓いを立てれば、私は浩二郎さんの妻となり、浩二郎さんは私の夫となる。でもせめて、せめて今日だけは思い出

のルージュを付けて、祐くんに見せたいの。何してるんだ、って怒られたっていい。これが最初で最後の私のわがまま。

父と腕を組み、私は今バージンロードを歩いている。ピンクのルージュを付けて。

過去を想い出に変えて、明日への扉を開くために……。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0001o/>

捨てられなかったルージュ

2010年11月3日01時22分発行